

2023年3月11日(土)

## 人新世 ～人類の負の遺産？～

「人新世」と書いて「じんしんせい」または「ひとしんせい」と読みます。ギリシア語起源の言葉で「人類の新たな時代」という意味で、英語では アントロポセス Anthropocene。46億年という地球の歴史を学ぶ上で、地質時代\*という言葉は欠かせませんが、私たち人類が生きている時代をもはや「完新生\*\*」という時代区分では扱えないのではないかとこののです。つまり、人類による活動が人工物の増加によって環境を激変させ、環境破壊などをもたらし、地質時代にさえも大きな影響を与えていると指摘されています。こうした人類の行き過ぎた活動に対して、2000年に開催した国際地質科学連合 IUGS の会議で、オランダのパウル=クルツェン博士[1933-2021]が、人新世という言葉を使って警鐘を鳴らしたことに始まります。確かに、1950年以降、急激に増大した化石燃料から出る微小な灰や、今話題のマイクロプラスチック、コンクリート片、また数々の核実験などから排出された放射性物資が海底の堆積物から確認されています。有り体に言えば、「人新世」とは、人類が地球に残した爪痕ということなのです。

昨年末には、日本の研究者たちによって大分県別府湾の海底の地層を「人新世」の代表地層にしようという提案もなされています。もし、別府湾の地層が選定されれば、第四紀更新世中期の「地磁気逆転」を示す代表地層「チバニアン」に続く命名となります。

今日は 3.11 東日本大震災から 12 年、地震や津波などで流出した大量瓦礫や、今なお処理作業の続く福島原発などからの排出物もやがて海底に堆積されていくこととなります。単に地質時代の一区分としてだけでなく、「人新世」という言葉の持つ重みを噛みしめながら今日という日について想いを深め、考えたいと思います。

末尾になりましたが、東日本大震災で亡くなられた多くの方々のご冥福をお祈り申し上げます。また、3.11 を忘れることなく、心にとどめ、一日も早い被災地の復興をお祈りしています。

\*地質時代…生物の進化や環境の変化に着目して地球の歴史を区分したもの。日本語では古生代、中生代、新生代のように「〇生代」という語を用い、その下位区分としてジュラ紀、白亜紀、第四紀のように「〇〇紀」があり、さらにその下を「〇〇世」、「〇〇期」と呼ぶ。

\*\*完新生…地質時代区分でいう新生代第四紀の内、日本では縄文時代初期の今から 1 万 1700 年～現代までをいう。